

矢野睦子邸に

兩送り致した

矢野亀雄の

追記の本がき

墨が押やけてしまふ

かもしれぬ ㊦

ミルピタス地区のやりに入り居り東側はナセキ園道(ミルピタス)西側はがらに
接し北側はニミセ(直路)昔ミルピタス。ワレド。ワタシ(直路)といはれて居り
まゝに仲はありまゝに畑はマクドナルドさんの所有地であり大部分はブルノの
オノルチヤードであり南隣はオノルチヤードにかみどこ屋を構つて居られた自人の
畑でありまゝした。マクドナルドさんはスタウトンにおにオフランスを構つて居られたので
ミルピタスの畑は同じ屋敷地に住られマクドナルドさんの信任の厚かつた
矢野村の一家が畑の傍(田)一や二や三や四つて居られた其の当時から矢野村は
ミルピタスの村の同胞の村長格として深山のうらやかと御世話話にあづかつて
居りまゝに事は私の此処に書か御す迄もなほ自^明の事柄であつた。

此処に筆削の記憶に鮮明を残つて居りまゝ矢野村雄介の御入と御りま
書目き加えて置きます。ある日矢野村が畑で馬使いごをせと居られた
時見知らぬ白人のおぢがマクドナルドさんの家まで来て来られたかと思つた
がらると家の廻りを回つて見て居られたまゝにマクドナルドさん矢野村は
に思われ畑から来て何か御用ですかと云われまゝに其の時其の御ぢは
先はマクドナルドさんの弟である船長としてついでにマクドナルドさんからの御り道に船が
サシフラシシニコにやつたので是非マクドナルドさんにあいたいと思ひ御合を
してミルピタスにまた船は明日御帆の予定であることとそれを聞かれた
矢野村はマクドナルドさんはスタウトンにおにオフランスを持たれそちらのやりに居
られます。私が真にお約束をとおるものも御りあやう。其の時はまだ
同胞の御ぢはあまり自動車をもつて居らぬ時でありました。矢野村は自介の
自動車でスタウトンやえと向はれまゝに遠くをまわつたので弟は
まだかまだかと聞かれたまゝにありまゝにやうやうとスタウトンの
兄弟のオフランスに於て何十年ぶりかやの御兄の御合でありました。
マクドナルドさんは波を流されて此の機会とのがしたならば怒らぬは
一生兄弟に会ふ事が出来なかつたのであつたことと矢野村の御心物を
をばれたといふ事でありまゝにまゝに

矢野村の夫婦は御前以外の御心ごとありまゝに

ら今今畑の角をF. E. G. が五英加程を買いました。千五百をもち、ス・ア・ミ・ミ・ミが建ててくれて居ります。畑はミルバ・ウ・ス・の・の・オ・ミ・ヤ・。エ・ブ・ル・さん・の・家・族・の・所・有・地・で・あ・り・ま・し・た・。一・度・ス・ウ・ン・ル・ド・さん・の・畑・の・北・西・の・角・と・エ・ブ・ル・さん・の・畑・の・東・南・の・角・と・は・三・三・六・の・道・路・と・は・な・ら・ず・に・接・続・し・た・形・に・な・つ・て・居・り・。千・九・百・十・年・に・は・畑・の・め・の・よ・う・に・三・千・英・加・余・り・を・小・い・家・と・昔・に・滑・り・畑・と・二・つ・わ・け・た・と・い・セ・り・と・作・り・お・も・ま・し・た・。千・九・百・十・九・年・に・は・越・賀・さん・と・父・が・ミ・ル・ド・さん・の・若・り・梨・畑・の・間・に・セ・ロ・リ・の・も・合・耕・作・と・さ・れ・て・居・ら・れ・た・時・に・知・り・日・本・か・ら・わ・つ・て・参・り・ま・し・た・。ま・た・ア・メ・リ・カ・の・畑・も・も・た・わ・か・ら・ぬ・ヤ・ン・グ・で・あ・り・ま・し・た・。島・の・頃・か・ら・矢・野・村・に・は・バ・イ・ス・お・れ・の・見・物・だ・る・が・つ・り・た・と・矢・野・の・マ・マ・フ・オ・ン・が・お・舞・あ・ま・ま・と・お・作・り・下・さ・れ・つ・れ・て・行・て・下・さ・れ・ま・し・た・事・は・私・の・主・と・通・わ・れ・る・事・の・お・ま・ま・な・り・強・い・思・出・と・な・つ・て・居・ら・ま・す・。

マ・ラ・ド・ナ・ル・ド・さん・の・畑・を・ア・ス・ケ・ア・た・ね・も・の・合・資・が・買・い・た・早・津・山・岸・の・た・ね・も・わ・か・の・改・良・々・に・致・し・ま・し・た・時・。矢・野・村・に・南・隣・り・の・自・人・の・畑・を・滑・ら・れ・其・の・当・時・と・こ・は・他・の・人・々・よ・り・一・歩・進・ん・だ・商・法・で・自・分・の・耕・作・物・を・自・人・か・の・ら・う・に・滿・載・真・摺・サ・シ・ン・セ・市・の・得・意・先・の・グ・ウ・サ・リ・に・配・る・と・い・ふ・事・業・も・に・お・成・ん・で・あ・ら・れ・ま・し・た・。千・九・百・十・二・年・に・私・者・の・家・が・バ・グ・ウ・ン・の・か・ろ・オ・ニ・ヤ・。バ・グ・ウ・ン・家・の・二・世・ミ・ス・ア・リ・ス・が・バ・ー・さん・の・遺・産・の・畑・を・買・い・つ・り・き・移・り・ま・し・た・。又・も・又・矢・野・村・と・は・真・ぶ・の・西・隣・り・と・な・ら・ま・し・た・

其の後大野村の親友のちでホワートマードに於て農業業をこゝに居られた西川氏の發起で西川氏のお隣りの玉田家と西川氏の義弟であられる棚瀬村西の家カミテの大田屋中尾村西の家と矢野村西門のちまると小島家と私共真田村七家族の同志が東部へ送り出しの秋の耕作。其の頃のシツピングを其の当時サシバ日本八町の町長格であられた園垣吉太郎氏にシエネラレマスシヤリになつてゐる。二十七年にあつたウエスタシエニオン鐵道会社のシエドカウのシツピングが神まつまゝに於ては矢野村西はミルバウスの本據とは別にサシバ市の南側方面に於ては、佐りの大百姓と初めて居られました。

石田平助氏四十七歳一平助氏は伊井家の家臣であり大州町より石田家の姓をもらいうけとて藩士では石田家の籍子といはれると長兄伊井伊知三郎氏は同村の上野菊松石田三郎兄弟よりも数十年前一渡米といふ事があるといふ此の伊井伊知三郎氏は伊井淳氏と妹嫁の矢野睦子様との娘とであられると

第九頁と第七十三頁と

よしの氏の付く人天性の社交家であられた石田忠氏タケシは古沢実治氏のまよやチ氏の弟と実治氏の義弟とであられると

去る十四年三月ホ昔佐々木良夫氏所夫婦御揃いで御孫御同道出陣を御訪ね下すりまゐるそれは現在真細代で御余生を御送りにして居られる御老母佐々木栄恵様おれす此の御親にミセスとありて五月をもちね又同じく故郷に御生を御送りにはなして居られます二十歳かミセス佐々木氏と阿部庄司様方の御老母所の御訪問に行かれての御事サシにせは御滞りになりわざと御土産もつこの御下宿なる御訪問にあつかりました

其の時佐々木良夫様より佐々木所の御宅は石田忠氏との旨む御近りの御身ゆであられるとありました

第二十九頁

真細代の阿部大三郎氏が立間村わか加賀城金吾氏から三百本の温州密柑の苗木を譲り受けられてこれを阿部庄司氏と古川喜次氏とに分け与えられたこれが真細代での温州密柑の御ゆである。阿部大三郎氏は当地の阿部庄司氏の御ゆであられると矢野家御近りの御親戚とであられるとついで

佐々木良夫様阿部庄司様方には大正大戦終結立退令御解除になりました当時御若のミセスの畑の重要なポイントに立ち御援助にあつかりました御立派な方といはられる事は一前の方の御身にも御書きたり記して頂いて居ります

第百二十三頁

当時十歳であった見根勝重氏は新の買出しに借馬船を漕いで
来るところだつた時源道前に妙な形の二本マスの打頼がおりておつた
このうちが当地の矢野村西門の見根村の兄子であつたとの事

第百二十五頁

佐々木米忠村の町名前が出て居ります。前の頁のうちに一度書きました
されてありますが佐々木良夫村の老母であつた戦後一度こういふおいでに
なつた時ミルビリスもおたずね下され両目にかつて居ります。其の後で
阿部庄司村の老母村もこちらの皆村の町訪問においでの時
乳芥の処えまでもおたずねつたので居ります。

而も知れも前にアメリカに居られた方々であられるものとあります。

第百二十四頁

松浦有執村は当地の佐々木良夫村の弟村であられると書いてす

第百二十五頁

由長協理事事長由長博士小笠原佐代市氏は佐々木良夫村の
妹婿の夫君であつた千葉県松子の高野園執云大宮二年
農事試験場柑橘試験場の友部長であつた時研究視察に
西渡米の時佐々木良夫村と共にミルビリスを両訪問にあつた
まことの所方と同じ所方であつたものと矢野睦子村より承りました。

第百二十六頁

立間村は最初に温州密柑を植えた村であるといひ下
す真網代から八里程はなれて居る村だといひあります。

第一回以来由長村青年実習生奨励果代表であつた船中で
怪我をされたため実習に困難をされた時矢野村が親身となつて
所世話をしてあげられました。宮本氏の村であります。さうして
此の記録を載せました北針の向本の沖に網をまして糸を記念として
大切に保存をさせていたたきます。ありがたうございました。

一九百十四年四月十五日記す

武田昌二

去るル十四年五月十四日矢野睦子探の函来訪を受けました
それより義息井上氏がワシントン州のシヤトル市方面での仕事に
行かれ仕事を終つた帰り途サモンのフイツシングに行かれて
釣りあげられた新鮮な美事なサモンをとわがわがの両届けに
あづかりました

和がピーコンパニーの成り立ちや又長らく所在所に住いと致し居り
其の間色々と数々の両世話にあづかりました

矢野多摩雄翁の函人なりと御門のうらやましいお筆を書き綴り
睦子探にお目ばかりておきました

此の度の両訪ねの時にもラドナルドさんの事につき私のまだ知らなかつた
事を睦子探より承りました それを所聞を致し私の

矢野探の事なればオノもありなんと感激を致した次第であります
それとこれ以前の記録の追記として是非お筆を加えておねばら
ない此処に筆をおくさせて戴きますこと

矢野探はラドナルド探から絶大の信任を得て居られました事は
前の記録にも記させて戴いて居ります

ラドナルド探には一人の両子息探があられました由で

第一世界大戦の時には海軍に入り將校として参加されたので
海軍將校としての肩書きをとおもちであられたと聞いてあります

ラドナルド探のサシビ地方の名士の如に数えられて居られたおかたである
と承つて居ります

ラドナルド探がおなごになりになり其の両探サシビの時にも私も
参加させて戴きました

矢野探のとめどもなく涙をながされこかなしんで居られました
ときも私の心もよくおぼえて居ります

マラドナルド探の所遺骸はあのオウヒルの山の上の真鍮な
建物の中におこめられあわれ天井の下で最後の告别の式が
いとなまれました。

此の度睡ふてこんよりありました。

マラドナルド探の所遺言状の仲にミルピタスの煙は

矢野探の家に贈るとありましたとさうでありませう。

其の当時は一般には排日の気風の吹き荒れて居た時だれもかれも
暗い思いを致して居りました時代でありました。

マラドナルド探の矢野探に對しての所行動はこれは無類の
事柄であつたと信じます。

矢野探はとんと考えられてから所遺族とミセスマラドナルドさんと
所子息さんもあられるので烟の所遺族の方々に渡るべきである
所遺上層とされてしまわれな。さうでありました。

此処にも又矢野探の日本人としての古来より傳承された
尊い心もちが輝いて居るには ありませんか。

ミセスマラドナルド探もいたく感動された事だ。ミセスさんよ、
其の後所と此の毒にも所子息探の方が先に若死に亡かれて
しまわれ。所花子式は海軍葬によつてでありましたとさうませう。
所棺は米国国家より贈られました。星條旗によりカバーを
つけて居りましたとさうであります。

ミセスマラドナルド探が所葬式の後で矢野探になにもあなただに
差しこするものがなすが此の国旗をメモリーとしてあなたにあげますと
矢野探に所渡したになられたとさうでありますか。
なんと尊い所話でしょうかありますんか。

終りに一筆書きたることを以て其の意を
長らく問敷々の一せのばうオニヤのうたが
和邦の民族の先頭に立たれ
此の如く事いふは石の(ツ)ツツの力となりは樂か
行く下これまはるる(ツ)ツツの力となりは樂か
今日の同胞の向上を其の力なりと思ひ
此の事いふは石の(ツ)ツツの力となりは樂か
天路を電柱合宿の而遺徳を思ひ
此処に記し置くは其の力なりと思ひ

武田昌二

一九四四年一月廿七日

フワザースターの日に記す

武田昌二

先日は私の北十三歳の誕生祝にと心をこめて御作り直しられました
けつこうな御料理を川原様の両子息様が御作りにな
られたといふ美事なうわに感銘し上してわがわがもたげね
にまづかりました。心より御礼を申上げます。
両心もちを有難く三回に渡りごちやうさいになさりました
ありがたうございませう。

其の時おかしらりました。北針感激をもつて読ませて
頂いて存じます。 子供の頃より学校で海国男子と

いふ言葉も聞きまして。信州の山の中海を知らぬ者には
心にピンリと来るのであります。此の度此の御本を
読ませて頂きます。ほんとうに海国男子としての心もちが
はつきりと教えました。

同志十人の方々の命がけの航海にかも同村のすまごであられる
事本のゆかりをいふと来る御名前には皆なつかしい
御名前ばかりであります。これこそ皆御方の長い間の郷土に
おかれてのお培われられた御心持が輝いて存じます。これは
永久にほころびをいつてもいふほどに御事柄であると信じます。
今やいおかり教へまじく幾度も読ませて頂きます。か
御心持の度と申して存じます。御承知をわがります。
まごたります。御名前は皆御方の御関係があるのではと思
書き出して見ました。何時かの御説明をわがり度と思
同村を致しました。

一筆遅れながら謹んで御礼申上げます。合掌

北十四年三月

武田昌子

矢野睦子様